

## 【7】 阿波おどりの歴史と魅力について語ろう

### 1 教材について

#### 〔教材選定の理由〕

「徳島県出身なら阿波おどりが踊れるやろ。」と言われて、小学校の運動会以来、踊ったことのない阿波おどりをこわごわ踊ってコミュニケーションを図ったという話をよく聞く。阿波おどりは、それほど本県の文化を代表するものでありながら、その歴史についてきちんと学ぶことなく大人になっている。また、ふるさとについて「阿波おどりしかない。」という否定的な言い方をする若者も多いが、阿波おどりの現在の状況について正確に知ろうとはしていない。

そこで、まず徳島県の伝統芸能の中で一番馴染みのある阿波おどりの歴史について学び、その特徴と魅力を探りながら、阿波おどりを大切にできる態度を身に付けてほしい。さらに、これからの阿波おどりのあるべき姿について話し合うことを通して、自信と誇りを持って阿波おどりを語り、積極的に関わっていかうとする意欲を培いたいと考え、この教材を選定した。

#### 〔生徒用資料解説〕

##### 阿波盆踊図

18世紀末の「阿波盆踊図」は最古の盆踊り図とされ、図に見える大きな傘は依代（よりしろ）といって祖先の霊が宿るシンボルであり、その横では、輪になって踊る姿が見える。このような小規模な盆踊りは、空き地や辻で踊ったと考えられる。このタイプの踊りとして、現在も踊られているのがワークシートの「津田の盆（ぼに）踊り」である。

「それは城下はずれの津田の漁村における盆踊りとして、今日に継承されている。」「図説 徳島県の歴史』（河出書房新社）から。

##### 徳島盃蘭盆組踊之図

19世紀初頭と考えられる「徳島盃蘭盆組踊之図」の一部では、例えば西新町二丁目や大工町西一丁目などの町組が100人以上の規模で、巨大な屋台や黒地円形の方位盤を中心に輪踊りを演じている。戦国時代末期の風流（ふりゅう）とのつながりが指摘される豪華で派手な「組踊り」は、今の「連」の原型と言えるものだが、藩の規制もあり次第に衰退していく。「風流踊りの再現」は、平成23年11月に藍住町で実施されたもので、派手な衣装や持ち物が目につく。

##### 阿波盆踊図屏風

19世紀中頃の「阿波盆踊図屏風」では満月に照り映える新町橋で群衆がひしめき溢れ、一方向に進む行進型の踊りが見られ、現在の踊り歩く「ぞめき」のスタイルが出来上がっている。

幕末の文化・文政期（1804～1830年）になると、阿波の藍玉が全国市場に進出するなど活況を呈するとともに踊りに加わる町人も急増したため、辻や空き地では踊れなくなり、道に繰り出す行進型の踊りに変化していったものと考えられる。

《参考》 「よしこの」の歌詞にあるように，“阿波の殿様，蜂須賀さまが，今に残せし”とする説には，年表の「1656年 盆踊り許可の御触れが出る。」からも異論がある。また，「こうした起源説話は，民衆が自分たちの踊りの由緒を，お殿様に結び付けようとして生み出されたものであり，歴史的な事実とはいえません。」（『あわいろ』徳島市）という見方もある。

【現在】…現在，県内では10カ所程度で踊られているが，代表例として徳島市阿波おどりを示す。

連の数<2010年現在>：数百～1000組

（有名連40～50，企業連，学生連，気の合う仲間の連）

無料演舞場＝3カ所，

<2004年～>有料演舞場＝4カ所の改革…指定席制，全国のコンビニで入場券販売，2部入替制（18:00～20:00，20:00～22:00）最終連に一般観客が参加可能のため大人気。

踊り方：団扇踊り，提灯踊り，やっこ踊り，あばれ踊り→フォーメーションを組む

## （例）凧踊り

演舞場以外の踊り：

→「輪踊り」踊り広場や踊りロードで自然発生的に踊りが練り広げられ，その周囲に見物の人垣ができるが，その客と踊り子たちの位置関係から呼ばれる。自由奔放，ダイナミックが特徴。

→「一丁回り」繁華街の路地裏で，簡素な衣装と鳴り物で踊りながら流す。大人たちが道端で三味線を弾くと，子供が寄ってきて踊り出し，「いっちょ，回らんで」と少人数で街を巡る。

→「三味線流し」風流に三味線を弾きながら練り歩く盆流し。徳島市や脇町うだつの町並みで。

日本3大阿波おどり：徳島の他として，

東京都高円寺（商店街の町おこし120万人），埼玉県南越谷（県出身企業60万人）

\*参考：総合教育センターのeラーニングの動画の一部をプロジェクターで見せることも有効。

## 2 授業の目標

- （1）阿波おどりについて学び，理解と関心を深めるとともに，ふるさとへの愛着を高める。
- （2）話し合いを通して，阿波おどりの魅力に触れ，伝統芸能として大切にすることを養う。
- （3）阿波おどりについて自信と誇りを持って語り，積極的に関わるができるようにする。
- （4）阿波おどりについて学習することで，他のあわ文化の意欲的な学習にもつなげる。

### 3 授業展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1を見て、本時のねらいの説明を聞く。</li> <li>・阿波おどりについて知っていることを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒それぞれが、阿波おどりと自分との関係について考えるよう留意する。</li> </ul>
展開 20分	<p>① <u>阿波おどりの歴史について</u>，ワークシートに沿って学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料本文から、阿波おどりの変遷について知る。</li> <li>・阿波おどりの隆盛を支えた、徳島藩の特産物を考える。</li> <li>・「阿波の盆踊り」ではなく「阿波おどり」と呼ぶことで何が変わるか考え、発表する。</li> <li>・お鯉さんについて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「組踊り」「ぞめき踊り」については、資料の解説を加え、余り深入りしないように理解させる。</li> <li>・踊りの明るい楽天的な調子が、藍商人の経済力を反映していることに気付かせる</li> <li>・時期や地域を越えた存在として普及していったことに気付かせる。</li> <li>・よしこのやその他のかけ声の意味を理解させる。</li> </ul>
15分	<p>② <u>阿波おどりの特徴と魅力について</u>，ワークシートに沿って考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波おどりの特徴について、班で話し合い、発表する。</li> <li>・現在の連の構成や鳴り物の種類を確認する。</li> <li>・阿波おどりを取り上げた文学作品と新聞記事を読む。</li> <li>・全国に広がる阿波おどりの状況や集客数からその魅力と人気を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なヒントを出し、特徴について気付かせる。</li> <li>・文学作品に阿波おどりが登場することを知り、ふるさとの再発見につなげる。</li> <li>・踊りの特徴が魅力となって、全国や世界に広がり、多くの人に親しまれている現状を理解させる。</li> </ul>
10分	<p>③ <u>阿波おどりのこれからについて</u>各自でまとめ、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状に関する資料も提示した上で、自分との関わりを含めて考えさせる。</li> </ul>
結論 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと次の文化に関する学習の予定を聞く。</li> <li>・各自で自己評価をし、ワークシートに○をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波おどりに関する学習が他の文化学習への興味付けに繋がるように留意する。</li> </ul>